

第23回都道府県対抗全日本女子柔道大会 記録

平成19年6月16日(土)17日(日)岡山武道館

優勝：東京都(13年ぶり)

監督 矢嶋 明(警視庁)
 コーチ 古矢 彰浩(渋谷教育学園)

1回戦	東京都	4 - 0	鳥取県	大将	手島 知佳(警視庁)
2回戦	東京都	5 - 0	福井県	副将	中川 愛子(警視庁)
3回戦	東京都	4 - 0	岐阜県	中堅	笠原 洵佳(全国警備保障)
4回戦	東京都	3 - 1	埼玉県	次鋒	佐藤 佳江(セコム)
準決勝戦	東京都	3 - 1	兵庫県	先鋒	中村 三里(渋谷教育学園)
決勝戦	東京都	内 - 2	愛媛県		



< 観戦記 >

平成19年 第23回都道府県対抗全日本女子柔道大会

平成19年6月16、17日岡山市岡山武道館において第23回都道府県対抗全日本女子柔道大会が行われ、決勝は東京都が愛媛県を破り、13年ぶり5度目の優勝を果たした。大会は全国から47チームに岡山選抜チームを加え総勢48チームが参加。初日(16日)に予選リーグ、最終日(17日)にそれぞれリーグ戦を勝ち上がった16チームによるトーナメント戦を行った。

東京チームは、先鋒中村美里 次鋒佐藤佳江 中堅笠原洵佳 副将中川愛子 大将手島知佳のメンバーで出場、予選リーグでは鳥取県、福井県と対戦。2戦2勝、リーグ1位でトーナメント戦に勝ち上がった。

試合内容については次のとおり。

予選リーグ(初日)

東京都 4 - 0 鳥取県

先鋒中村が肩車で技あり優勢勝ち、続く次鋒佐藤袈裟固め(1分48秒)、副将中川内股(1分14秒)で共に一本勝ち、大将手島背負い投げ効果で優勢勝ち。

東京都 5 - 0 福井県

先鋒中村縦四方固め一本勝ち(1分32秒)、次鋒佐藤一本背負い投げ一本勝ち(27秒)、中堅笠原背負い投げ一本勝ち(45秒)、副将中川内股一本勝ち(24秒)、大将手島大外刈り有効勝ち。

初戦の鳥取戦では少々硬さも見られたが全員よく落ち着いて堅実に戦った。福井県は中学生、高校生中心の若いチームであったが全く寄せつけず、皆実力を発揮した。

決勝トーナメント(最終日)

東京都 4 - 0 岐阜県

先鋒中村引き分けの後、佐藤横四方固(3分16秒)、笠原崩上四方固(1分43秒)、中川内股有効、手島上四方固(1分39秒)で勝ち圧勝。

準々決勝戦

東京都 3 - 1 埼玉県

中村小内刈、佐藤一本背負い投、中川内股と3名とも有効により勝ち。手島は終了間際の双手刈で効果負け。

中村、中川は守る相手をよく追いかけてポイントを挙げ、佐藤は全柔連強化の峯田から有効を奪い、笠原は実力者の吉澤につけているスキを与えなかった。

準決勝戦

東京都 3 - 1 兵庫県

先鋒 中村美里 引き分け 垣田恵利

中村 48kg 級、垣田 52kg 級共に全柔連強化選手。中村は体重区分で一階級上の垣田に対し臆することなく果敢に攻め、一進一退の攻防が展開するが時間となる。

次鋒 佐藤佳江 有効（体落） 武田三友紀

昨年、一昨年と本大会で優勝している兵庫県チームの得点源である武田。今大会も元気よく活躍し好調であったが、佐藤はよく落ち着いて武田を捉え、終盤佐藤の放った体落が有効となり、貴重な一点を挙げる。

中堅 笠原洵佳 一本勝ち（送襟絞） 松浦早江子

開始早々笠原得意の背負い投、体落とよく攻め込み主導権を握る。2分59秒潰れた相手を上から攻め送襟絞にいけば見事に決まって一本。

副将 中川愛子 一本勝ち（大内返） 板倉加奈

板倉は終始中川の内股を警戒。中川は攻め込むが攻撃が少々単調になりポイントに及ばない。終盤中川の内股が有効を挙げ、さらに3分29秒板倉の大内刈を中川が返して一本となる。

大将 手島知佳（横四方固）一本負 堀江久美子

開始早々堀江の攻撃に手島大きく崩れ伏さった所を返され横四方固に決められ一本。

決勝戦

東京都 2 - 2 愛媛県

先鋒 中村美里 引き分け 浅見八瑠奈

今春の全日本体重別選手権で対戦している二人、この時は中村が効果で勝っている。中村小外刈、背負い投、浅見背負い投と互いに攻め合うも効果無く時間となる。

次鋒 佐藤佳江（小外掛）効果 宇高菜絵

昨年の講道館杯で優勝している宇高、今大会中心選手として得点を挙げ愛媛県チームを決勝戦まで引き上げてきた。対する佐藤も本日絶好調、激しい攻めで後一步の所まで追い込むがポイントには至らない。途中、宇高は佐藤の奥襟を掴み得意の形となるが佐藤良く捌いて凌ぐ。終了間際宇高の小外掛に佐藤脚から崩れ効果となり時間。

中堅 笠原洵佳（払腰返）有効 宮本樹理

57kg 級世界代表経験のある宮本、今大会では一クラス上の階級での試合とはいえその実力を発揮し、ことごとく投げ倒して勝ち上がってきた。その宮本に対し、笠原は得意の背負い投で効果を奪い先制する。その後も笠原は受けに回る事無く果敢に攻め続け会場を大いに沸かせる。しかし、実力者の宮本、笠原の強引な払腰を見逃さず後に返して有効となり時間。

副将 中川愛子 技あり（内股） 風戸晴子

風戸は今年の全日本選手権5位、全日本体重別でも優勝経験のある強者。中川にとっては厳しい展開となった。自身が勝たねばチームは負けるこの場面で攻めに攻めたい中川であるが風戸はそれを許さない。得意の内股、背負い投と先に攻撃し中川につけているスキを与えない。焦る中川強引に内股にいくが潰されて寝技で攻められ時間が経過していく。

終了間近、残り10秒で中川渾身の内股にいけば風戸の身体が大きく舞って技ありとなる。

大将 手島知佳 一本勝ち（内股） 徳永真梨恵

開始早々手島右からの支釣込足にいけば徳永崩れるがポイントにはならず。手島続けて思い切りの良い内股は見事に決まって一本。東京都13年ぶりの優勝を決める。

今大会、東京都チームは中村、佐藤、中川を得点源とし、失点を抑え、しぶとく勝ち上がっていく作戦を立てていた。ところが中堅笠原、大将手島も含め全員が得点獲得に絡み、予想以上の試合展開となった。特に決勝戦では、敗れたとはいえ、佐藤、笠原の攻撃的な戦いぶりは「強気で攻める」という東京チームの合い言葉に拍車をかけ、中川、手島の勝ちに結びついた。まさにチーム一丸となつての全員で勝ち取った勝利である。ぜひ、選手達には今大会の経験を種にさらに精進して成長して行って頂きたい。

なお、当日は東京都柔道連盟から関根 忍、鳥海又五郎両副会長、福田二郎専務理事、森 義昭競技力向上委員長が応援に駆けつけて下さり、選手にとってはこの上ない勇気と励みを与えて頂きました。諸先生方を始め、関係各位の皆様にご心より感謝を申し上げます。観戦記とさせていただきます。

競技力向上委員会委員

東京都女子チーム監督

矢 嶋 明